

① 独断・暴走による

【関東軍の体質】

「満州国」の建国

※「独断・暴走・謀略」/代名詞

「いったん事を起こせば、後は軍の思うまま…」

結果⇒「満洲国」の建国

－ 昭和7年 －

昭和3年6月4日（張作霖爆殺事件）

②「満洲は不穩」情勢あり
「居留民保護・満蒙權益保護」のため
「満洲全域を占領する」開戦/口実！



奉天軍閥首領
（東宮鐵男）



①張作霖/不要

◆どのようにして「満州国」を

S6/9月18日 柳条湖/鉄道爆破＝軍による計画的謀略行動

S7/3月1日 3省要人（東北行政委員会）により
「満洲国建国宣言」

「東三省（黒龍・吉林・遼寧）は
南京政府から離脱し独立せり」

「自治独立運動」に偽装

※リットン調査団＝「満洲国」は不承認、日本の利権は認める（10/2）

S8/2/22 関東軍「熱河省」に侵攻（4省満洲国に確定）

S8/2/24 国際連盟「満洲不承認」（42対1）日本脱退

◆ 溥儀皇帝擁立/「政治に干渉しない」誓約

実態 総務庁/日本官僚を次長・軍の承認

「憲法、議会、国籍法の規定ない」独立国

◆ 官僚の頂点に（満洲国産業部次長）
「満洲国の真の支配者は官僚である」
（リットン/国連理事会報告）

満洲人脈（関東軍、新興財閥、特務機関
アヘン組織85億円）「満洲は私の作品だ」

「傀儡国家」

・安倍晋三 “祖父の時代は栄光の時代だった”

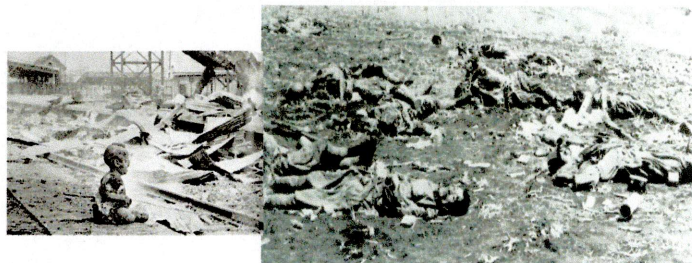
②「残虐性」による

《関東軍の体質》

⇒「南京大虐殺事件」



※ 南京大虐殺時事件は どうして起こったのか



昭和12年7月 日中戦争開始（盧溝橋事件）

（目的） 華北5省を制圧し、第2の満洲を
国民政府を⇒「従属的・親日化」すること

・中国/抗日戦線（国共合作）で抵抗 泥沼化長期化（～S20）

（戦況） 上海上陸（8/15）～陥落（11・11） 3か月
－ 南京まで300キロ追撃（陥落12/13） 1か月

◆凶暴性が激化 南京に乱入

※ 凶暴性の激化（原因）

1、上海激戦（死傷者4万人）
⇒ 敵愾心、恐怖心、恨み

2、現地調達主義

3、長期激戦による軍紀の崩壊

4、南京一番のり 下剋上・功名主義

昭和12年12月13日～2か月間
—10万～20万人—

(捕虜・非戦闘員)

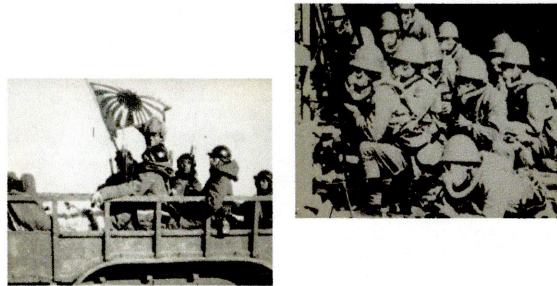
命令により処分

・「**国際戦時法**」—捕虜に食わせるものはない
(宣戦布告なし) 満州事変・日華事変
・「戦争でない」/「捕虜はセヌ」方針
・「**適当に処分すべし**」命令

・上海派遣軍司令官/朝香宮鳩彦王中將 (入場式/皇族への危害防止—城内徹底掃蕩作戦)
(やすひこおう)
(基幹部隊=会津若松歩兵連隊、新潟高田山砲連隊)



※ 関東軍の残虐行為



1, 「**南京大虐殺**」(10～20万人)

2, 731部隊(細菌生体実験)、使用
(毒ガス実験・細菌兵器・病原体の兵器化)

3, 「**三光作戦**」(焼き尽くす、殺し尽くす、奪いつくす)
(日本軍は蝗軍・鬼畜・悪魔)

4, **アヘンの流通**(資金・中国人の弱体化)

5, 「**慰安婦**」問題～軍設営



・**戦場は
狂気の行為が
「普通」になる。**

連行される中国人捕虜

・**実直な農民が
「鬼に転げ落ちてゆく」**



虐殺された中国人の死体

・村瀬 守保 兵士の証言

日本軍トラック部隊の兵士
中国戦線を転戦 写真の記録係

「一人ひとりの兵士を見ると
みんな普通の人間であり
家庭では良きパパであり、良き夫です。
**戦場の狂気が人間を
野獣に変えてしまうのです**」

・「**関東軍 百万の精鋭があるかぎり
満州は不滅だ!**」

・常勝 関東軍

・泣く子も黙る関東軍

〈関東軍は本当に
強かったのか〉

【**関東軍の残虐性はなぜ起きたのか**】
＝軍内部・体制内の弱さ＝

1, 軍の内務班での「私的制裁」

— 戦場で爆発した

2, 兵力の少なさ

— 囲まれている恐怖と「神経戦」による疲労

3, 「現地調達主義」

— 略奪・殺害・強姦

4, 中国人への蔑視観

5, 戦場での下剋上・功名主義

※ **満州侵略(進出)の**
《昭和初期》
目的は何だったのか!

(1) 関東軍

① 「**特殊3権益**」の死守

② 対ソ防衛

(2) 農村 - 疲弊の救済

(1) **軍の野望**

11万5千人の死者・戦費
(旧・日露) (3権益) **外国には渡せない!**

① ソ連(仮想敵国)南下の気配、恐怖

② 国際世論(米英利権との衝突)

軍の自由になる地域を早く確保したい!

➡ 「満州国」の建国へ(野望)

→ 野望から暴走へ

1、《政党政治への敵愾心》

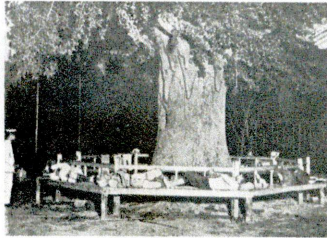
- (国内)
- ・1930(S5) 浜口雄幸首相 狙撃
 - ・1932(S7) 5・15事件 犬養毅首相 殺害
 - 1936(S11) 2・26事件 首都占拠

《昭和維新》

2、1931(昭和6)満州事変

- (中国)
- ※ 軍・中央の不拡大方針を無視
 - ・1932(昭和7)満州国建国
 - 1937(昭和12) 日中戦争開始

(昭和4～10年)



帰農者の野宿



欠食児童

東北では木の皮を

- ・昭和5年 / 産業別就業人口 47% 農業
- ・農村は兵隊の最大供給地

※ 農村の疲弊

- 軍
- ・“東北農村の窮状を救え！”
 - ・“肥える財閥に鉄杖を！”



※ 国民の支持 → 軍の台頭へ
(昭和維新)

【農村更生運動】 → 打開策 満蒙移民の割り当て
(自力更生)

《満洲》

- ・満州56%は未開地
- ・農産物13億円 → 30億円に
- ・輸入品は満州で調達可能

→ “夢の大地” / 満洲へ

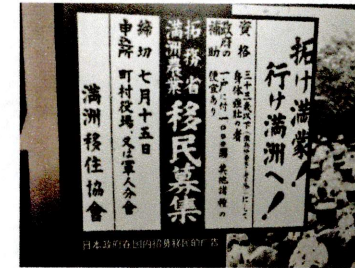
(移民/「分村移民」には村予算の1.5倍/奨励金)

“乗り遅れるな”(満洲へ)

(2) 「昭和農村大恐慌」

- 1、絹(輸出総額の25%)の激減
(昭和4・22億円 → 昭和6・12億円)
- 2、都市失業率15% 帰農土地なし
- 3、昭和5年 豊作飢きん(米価暴落)
- 4、昭和6年 9年の水害・冷害・凶作
- 5、高年貢変わらず 小作争議の頻発
欠食児童(20万人) 娘の身売り
⇒ 「農村厚生運動」へ

(昭和4年～10年)



行け満洲へ！

《昭和初期の国内状況 四十年》

【満州】への期待

《1、農村の疲弊》

- 昭和農村大恐慌 -

(農村救済)
満州への移民熱
(満蒙開拓団)

《2、軍隊の野望》

- 3権益の危機! -

(3権益確保のため)
満州国の建国
(経営要員・対ソ防衛)

(3) 満州への進出(侵略)を

支持・推進した国家体制

- ① 労働組合
- ② 教育・思想・文化状況
- ③ 新聞・ラジオ

(国民の心)

- ・教育勅語
- ・治安維持法
- ・戦陣訓



① 労働組合の戦争協力化



「一億一心」
「華国一致」

- ・1937(昭和12)
- ・ストの自粛
- ・戦争支持